

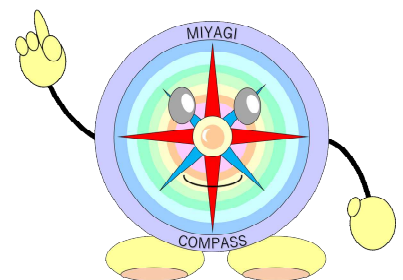
第 2 章

やってみよう！

授業づくり

(実践編)

理論編を踏まえての
提案です！



知的障害教育の授業づくりを始めるに当たって

知的障害教育に初めて関わる美田先生と園子先生が、授業づくりを始めるに当たって、特別支援学校のベテラン名取先生にいろいろ聞いています。名取先生は、特別支援教育の経験が長く、知見が豊かで、知的障害教育の授業づくりをサポートしてくれる頼りになる先輩です。

第1章



特別支援学級
1年目の美田先生

今回、初めて知的障害特別支援学級の担任になりました美田です。
どう授業づくりをしたらいいのか分かりません。何から始めたらよいですか？

知的障害教育では、児童生徒の実態把握から授業づくりを始めることが重要なポイントになります。

そして、児童生徒の実態によって、指導内容や方法、目標及び評価規準を常に調整・見直ししていくことが大切になりますよ。



特別支援学校
ベテランの名取先生

第2章（教科別の指導）



日々の実態把握からスタートすることが大切なのですね。では、児童生徒の実態から単元や題材は、どうやって考えたらよいのでしょうか？

単元や題材を考えるときには、「児童生徒にどんな力を身に付けさせたいか？」を常に意識します。その際、学習指導要領に示されている「育成を目指す資質・能力」を踏まえて、単元や題材を考えましょう。



第2章（各教科等を合わせた指導）



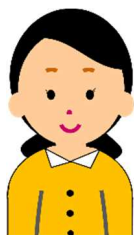
特別支援学校
1年目の園子先生

私は、初めて知的障害特別支援学校の勤務になりました園子です。
何だか難しそうですね……。
時間割に、「生活単元学習」や「遊びの指導」と書いてありますが、これはどういうものですか？

「生活単元学習」や「遊びの指導」は国語や算数のような教科ではなく、「各教科等を合わせた指導」という指導の形態の一つです。他にも、「作業学習」や「日常生活の指導」もありますよ。



第3章



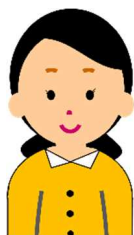
なぜ教科ごとではなく、「各教科等を合わせた指導」を行うのですか？

知的障害のある児童生徒の場合、学習上の特性として、

- ・ 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすい。
- ・ 実際の生活の場で応用されにくい。
- ・ 実際的な生活経験が不足しがちである。

等があげられます。そのため、実際の・具体的な内容の指導がより効果的になります。

このような特性から、身に付けさせたい力を各教科等に分けて指導するのではなく、児童生徒の生活に即し、各教科・領域等を分けずに、これらの一部または全部を合わせて指導を行うことが効果的だからです。



知的障害のある児童生徒の学習上の特性を考えると、「各教科等を合わせた指導」が効果的な場合があるのですね。

「教科別の指導」との違いについて、もう少し詳しく教えてください。

児童生徒の実態を大切にすることは、どちらの指導でも変わりません。

ただし、「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」では、各教科の目標及び内容の扱い方が違います。

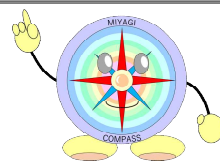
「教科別の指導」の場合、児童生徒の実態から、身に付けている力に見合う各教科の段階を重視して目標及び内容を調整・見直しすることが大切です。

「各教科等を合わせた指導」の場合、児童生徒の実態から、単元で扱う複数の教科の目標及び内容を意識するということが違いになります。



まだ不安なところはありますが、知的障害教育の授業づくりが、少し分かってきました。もっと具体的に知りたくなくなりました。

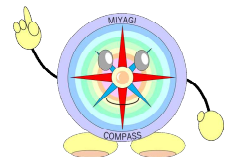
では、これから授業づくりについて一緒に考えていきましょう。



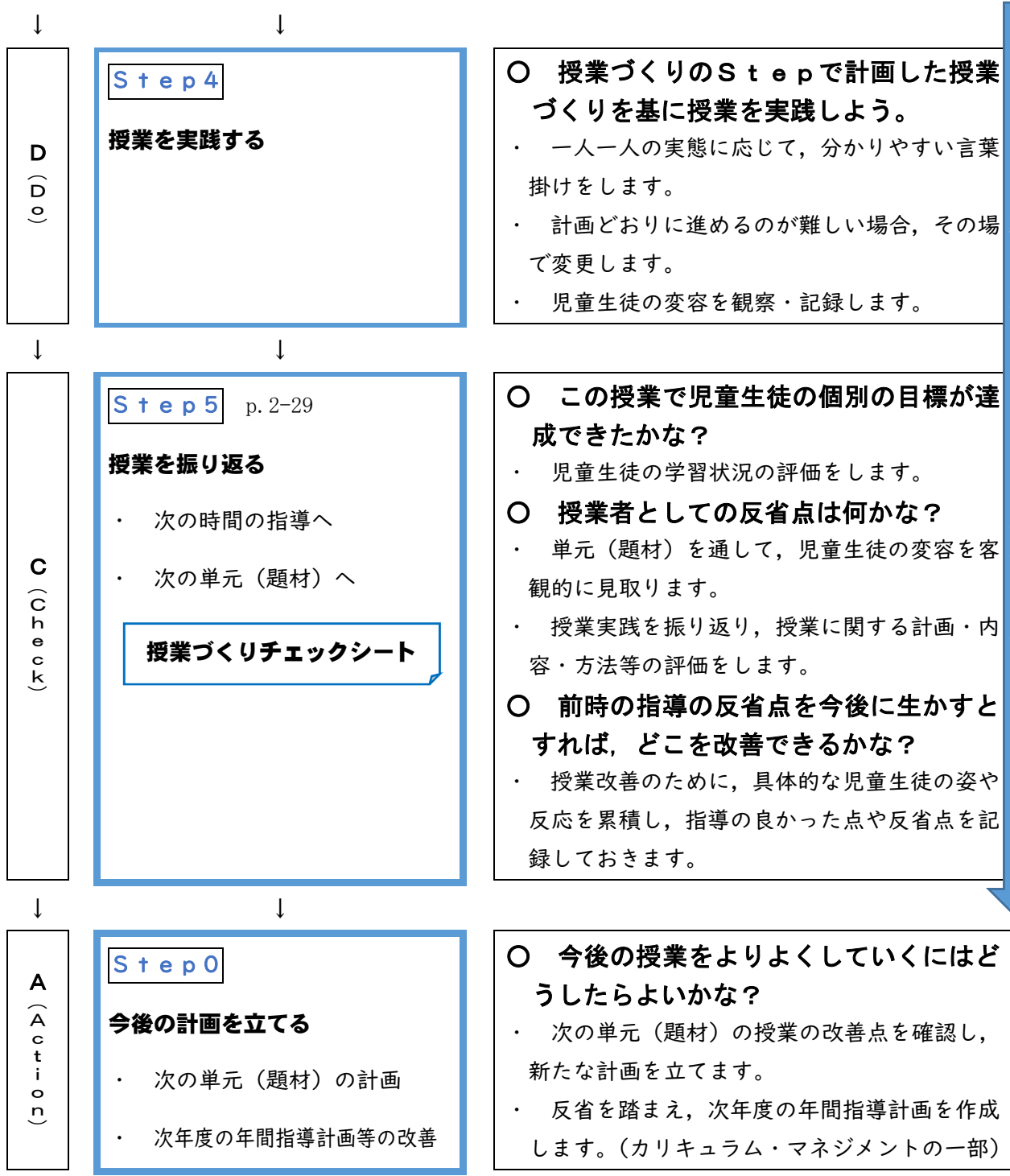
授業の構成図

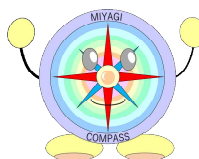


「教科別の指導」も「各教科等を合わせた指導」も、前年度に立てられた年間指導計画を、今年度の児童生徒の実態に合わせて調整・見直しをし、授業づくりを行います。また、その際には「授業改善の視点」(主体的・対話的で深い学び) (p. 2-32) の「主体的・対話的で深い学びをしている児童生徒の姿(例)」をイメージすることを提案します。



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善



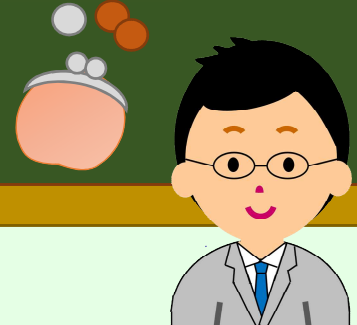


実際に単元（題材）計画や学習指導案を作成する際は、Stepの順番どおり進まなかったり、Stepを行ったり来たりすることもあります。各Stepの内容を参考に、**目標から評価までの一貫性を意識しながら**、自分の作成しやすい順番で授業づくりにチャレンジしてみてください。

授業づくりの際は、「**授業づくりチェックシート**」（p. 2-49）を活用して、Stepごとに授業改善に向けたチェックをしながら進めましょう。

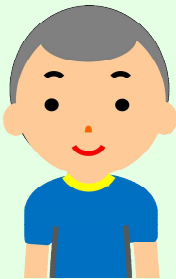
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をする際は、**授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）**（p. 2-32～p. 2-34）を参考にしてください。

授業づくりをやってみよう！ 教科別の指導（算数科編）



美田先生

- ・ 春から、小学校勤務。特別支援学級（知的障害）担任。
- ・ 今回は、「算数科」の授業づくりを行う。
- ・ 担当は1年生。在籍児童は3人。



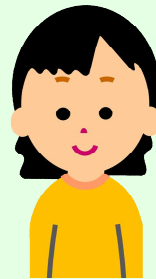
Aさん

- ・ 知的障害
- ・ ダウン症



Bさん

- ・ 知的障害



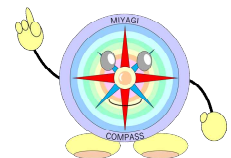
Cさん

- ・ 知的障害
- ・ ASD



Aさんに焦点を当て、一緒に授業づくりをしていきましょう。
らしーんもガイドよろしくお願いしますね。

次のページから（p. 2-7～p. 2-14）、教科別の指導「算数科」の授業づくりの一例を示しました。



授業の構成図（教科別の指導）

学習指導要領

（各教科の育成を目指す資質・能力）
（各教科の目標及び内容）

年間指導計画

（各教科の育成を目指す資質・能力）
（各教科の目標及び内容）（指導内容・方法）

児童生徒の実態

（身に付けている力，各教科の段階）
個別の教育支援計画，個別の指導計画

児童生徒の実態から，指導する教科の段階を重視して，調整・見直し

単元（題材）の目標

（各教科の育成を目指す資質・能力）
（各教科の目標及び内容）

個別の目標

（各教科の育成を目指す資質・能力）
（各教科の目標及び内容）

指導内容・方法

（各教科の目標及び内容）

単元（題材）の評価規準

（3観点）

個別の評価規準

（3観点）

授業実践

単元（題材）の評価

（3観点）

個別の評価

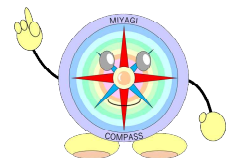
（3観点）

授業の評価・改善

次の授業実践へ

主体的・対話的で深い学びの視点

「教科別の指導」の授業づくりでは，児童生徒が身に付けている力に見合う各教科の段階を重視して目標及び内容を調整・見直しをします。その上で，具体的な単元（題材）の主な指導内容・方法を決めていきます。



Step 0 事前に確認する



事前の確認とは、どんなことをすればよいですか？

授業づくりは、この単元（題材）はどんな学習をするのかを事前に確認することから始めます。まずは、学校の年間指導計画を基に、これから計画する単元（題材）と他単元（題材）との関連、行事との関連等を確認しましょう。



〇〇小学校 〇〇学級（知的障害特別支援学級） 年間指導計画一覧

		4月	5月	6月
教科別の指導	国語	・音読 ・短文視写 ・言葉遊び（しりとり、なぞなぞ、かるた等）	・平仮名、片仮名の読み書き	・交換日記
	算数	・なんにんいるかかぞえよう	・かぞえめいじんになろう	・いくつといくつかな？
	音楽 ※交流	・導入 ・リズムとなかよし		
	図工 ※交流	・すきな かたちや いろ なかに ・オリエンテーション	・かきたい もの なかに ・ちよきちよき かざり	・すなや つちと なかよし ・ひもひも ねんど
	体育 ※一部交流	・体ほ		
道徳	※日々			
自立活動	※児童			
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	・挨拶 ・身のこなし ・着替		
	生活単元学習	・みんなのクラス ・学校生活		
		・野菜 ・カレー		

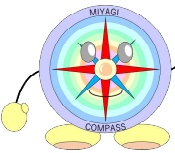
単元名	2. かぞえめいじんになろう		教科書のページ	☆☆(1)p.10~23
配当時間	7時間	活動時期	5月	学習指導要領の内容
単元の目標	知識及び技能	ものの集まりや数詞と対応して数字が理解できる。		
	思考力、判断力、表現力等	数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。		
	学びに向かう力、人間性等	ものの集まりや数詞に関心をもち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味をもって学ぼうとする。		
単元の観点別評価規準	知識・技能	ものの集まりや数詞と対応して数字が分かっている。		
	思考・判断・表現	ものどもの関係において、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学級の当番活動に生かしている。		
	主体的に学習に取り組む態度	ものを数える活動において、ものの集まりや数詞に関心をもち、生活や学習に活用しようとしている。		

この学級の児童は、国語と算数は星本（☆本）を、音楽、図工は交流学級と同じ1年生の教科書を使っています。国語、算数においては授業の際、学習活動で星本（☆本）を使うと学習の効果があると思われる場面で使用していますよ。



※星本（☆本）…知的障害特別支援学校用 文部科学省著作教科書

「年間指導計画一覧」を見ると、他の単元（題材）や行事との関連が確認できます。次に、学習指導要領から「教科の目標及び内容」を確認し、児童生徒の実態（教科の段階）に合わせて、具体的な単元（題材）の主な指導内容・方法を考えます。この2つを踏まえて、学校の教育活動全体や生活場面に即しながら、繰り返し指導していくことにつなげていきましょう。



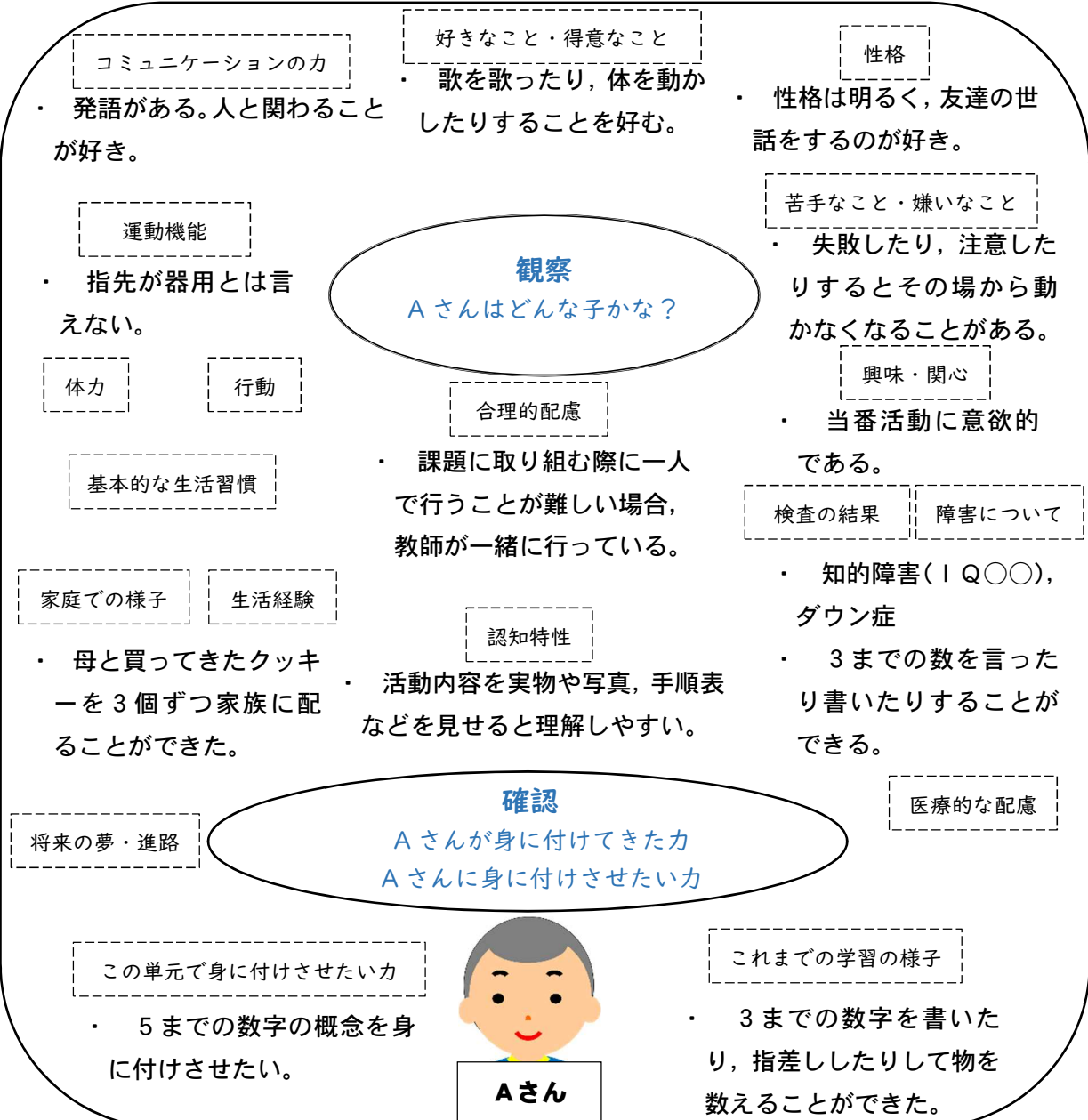
Step 1 実態を把握する



どうやって実態を把握すればよいですか？

児童生徒の障害の状態や個性は、一人一人異なります。そのため、授業づくりにおいては、的確な実態把握が大切です。障害名や診断名を参考にしつつも、目の前の児童生徒一人一人の姿を見つめましょう。例えば、休み時間に一緒に遊んだり、話をしたりすることで、児童生徒の姿が見えてきますよね。

算数科「かぞえめいじんになろう」をするに当たって、Aさんの実態把握をし、単元と関わりのある部分を抜き出してみたのが以下のものです。



観察するとき… 一緒に関わりながら観察したり、少し離れたところから他の教員や友達と関わりながら観察したり、一人での過ごし方を観察したりします。

確認するとき… 「保護者からの聞き取り」「本人の言動」「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」「昨年からの引き継ぎ」「他の教員からの聞き取り」「検査の結果とその解釈」等を参考にします。

Step 2 単元（題材）の構想を練る



単元（題材）の構想を練るとは、何をすればよいですか？

単元（題材）の構想を練る際には、この単元における児童生徒の「育成を目指す資質・能力」は何かを考えながら、以下の内容を検討します。



- ・ 単元（題材）の目標を考える
- ・ 単元（題材）の評価規準を考える
- ・ 設定した単元（題材）の目標と評価規準の整理をする
- ・ 単元（題材）の個別の目標を考える
- ・ 単元（題材）の個別の評価規準を考える
- ・ 単元（題材）計画を考える

目標の設定では、「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」の各教科の各段階の目標及び内容を参考に設定します。外国語は教科の目標（英語を指導する場合は教科の目標及び内容）を参考に設定します。特別支援学級で、小学校（中学校）の内容を行っている場合は、小学校（中学校）学習指導要領の各教科の目標及び内容を参考に設定します。

目標と評価規準の設定について、もっと詳しく知りたい場合は、p. 2-36～p. 2-45 を是非読んでください。

単元（題材）の目標を考える

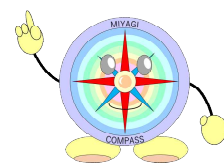
単元（題材）の目標は、育成を目指す資質・能力の三つの柱で設定します。ただし、「学びに向かう力、人間性等」については学習指導要領に内容が示されていないものが多いので、その場合は、該当段階の「学びに向かう力、人間性等」の目標を参考に作成します。

単元（題材）の目標の表記

観点別目標	文末例
知識及び技能	～ができる。分かる。 理解する。身に付ける。 等
思考力、判断力、表現力等	～ができる。考える。 広げる。 等
学びに向かう力、人間性等	～しようとする。親しむ。 豊かにする。 等

〔参考〕文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」〕

特別支援学校、特別支援学級では、同じ学年であってもそれぞれの児童生徒に見合う教科の目標及び内容の段階が異なることがあります。単元の目標を設定する場合は、多くの児童生徒に対応できる目標を設定します。集団の平均になりそうな段階の指導内容を基に考えると、様々な段階の児童に対応しやすいです。



単元（題材）の評価規準を考える

指導目標が達成される**具体的な姿**を考え、学習評価を行うための評価規準を設定します。特別支援学級で、小学校（中学校）の内容を行っている場合は、小学校（中学校）学習指導要領の各教科の目標及び内容を参考に設定します。

評価規準の表記

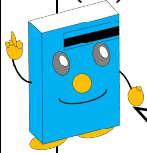
評価規準	文末
知識・技能	～している。
思考・判断・表現	～している。
主体的に学習に取り組む態度	～しようとしている。

※ 各教科の文末表記について、詳しくは「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」でご確認ください。

単元（題材）の目標及び評価規準の設定例

例：算数科 単元名「かぞえめいじんになろう」（さんすう☆☆(1) 文部科学省）**2段階**

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
内容	A 数と計算 (ア)①ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	A 数と計算 (イ)②数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	(2段階の目標) A 数と計算 ウ 数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。



内容は学習指導要領に記載しています！

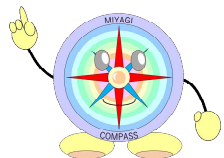
年間指導計画上の単元の目標 →

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元の目標	ものの集まりや数詞と対応して数字が理解 <u>できる</u> 。	数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。	ものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学 <u>ぼうと</u> する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	牛乳やストローの集まり、それぞれの数詞と対応した数字が分かって <u>いる</u> 。	牛乳とストローの関係において、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活の場面に <u>応じて</u> 考えている。	主体的に学習に取り組む態度 牛乳やストローを数える活動において、ものの集まりや数詞に関心を持ち、生活や学習に活 <u>用しよう</u> としている。

児童生徒の実態を踏まえつつ、単元（題材）の指導方法・内容をおおまかにイメージします。その上で、評価規準は、単元（題材）の最後にどのような姿が見られるかを想像して考えます。目標と評価規準は、単元（題材）を構想しているときに振り返り、適宜修正します。

「学びに向かう力、人間性等」の評価規準を設定する際、観点が「主体的に学習に取り組む態度」に変わる理由については、p. 2-36 を見てください。



設定した**単元（題材）の目標と評価規準の整理**をする

単元（題材）の目標と評価規準を設定する際は、「**目標・評価規準設定シート**」（p.2-46）を活用して整理しておくことで、教員間で共通理解が図りやすくなります。

記入例	
学年	○○ 組 ○○ 学級 教科等： 算数
目標・評価規準 設定シート	
単元（題材）名	かぞえめいじんになろう 7 時間扱い
期 間	令和〇年〇月〇日（〇）～〇月〇日（〇） 場 所 教室
児童生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学級3名 ・ 集中できる時間は短い。興味のある活動は離席しないで行うことができる。 ・ 3までの具体物を数えられる。感覚的に数の大小は分かる。数の比較は難しい。2段階（Aさん、Bさん） ・ 20までの具体物を間違えずに数えることや比べたりすることができる。3段階（Cさん）
目 標	<p>ものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。 [知識及び技能]</p> <p>※ 年間指導計画の目標から児童生徒の実態に応じて、適宜修正</p> <p>数詞と数字、ものともとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。 [思考力、判断力、表現力等]</p> <p>ものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。 「学びに向かう力、人間性等」</p>
扱う教科の 内容	算数 A 数と計算（ア）㊦，（イ）㊦，ウ 2段階
評価規準	<p>牛乳やストローの集まり、それぞれの数詞と対応した数字が分かっている。 (知識・技能)</p> <p>牛乳とストローの関係において、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活の場面に応じて考えている。 (思考・判断・表現)</p> <p>牛乳やストローを数える活動において、ものの集まりや数詞に関心を持ち、生活や学習に活用しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>



Aさん

- ・ 知的障害
- ・ ダウン症



Bさん

- ・ 知的障害

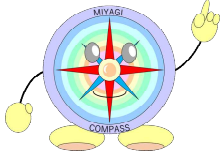
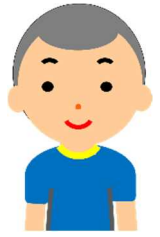


Cさん

- ・ 知的障害
- ・ ASD

単元（題材）の個別の目標を考える

単元（題材）の個別の目標は育成を目指す資質・能力の三つの柱で設定します。ただし、「学びに向かう力、人間性等」については学習指導要領に内容が示されていないものが多いです。その場合は、該当段階の「学びに向かう力、人間性等」の目標を参考に作成します。



単元の個別の目標や評価規準を設定する際にも、「**目標・評価規準設定シート**」（p. 2-46）を活用することができます。

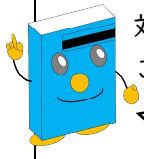
単元（題材）の個別の評価規準を考える

単元（題材）の個別の目標を踏まえて、単元（題材）の個別の評価規準を設定します。目標が達成される**具体的な姿**を考え、学習評価を行うための評価規準を設定します。

単元（題材）の個別の目標及び評価規準の設定例

例：算数科 単元名「かぞえめいじんになろう」（さんすう☆☆(1) 文部科学省) **2段階**

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
内容	A 数と計算 (ア)㊦ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	A 数と計算 (イ)㊦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	(2段階の目標) A 数と計算 ウ 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。

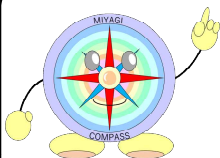


内容は学習指導要領に記載しています！

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元の個別の目標	<u>5までの</u> ものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。	<u>5までの</u> 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。	<u>5までの</u> ものの集まりや数詞に関心をもち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。

単元の評価規準→

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の個別の評価規準	牛乳やストローの集まり、 <u>それぞれ</u> の数詞と対応した5までの数字が分かっている。	牛乳とストローの関係において、 <u>5までの</u> 数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活の場面に応じて考えている。	牛乳やストローを数える活動において、 <u>5までの</u> ものの集まりや数詞に関心をもち、生活や学習に活用しようとしている。



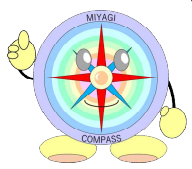
学習指導要領では、2段階は10までの数について身に付くよう指導します。Aさんは3まで身に付いています。実態を考えると、この単元で10まで身に付けることが難しいと考え、5までの数を身に付けることをねらっています。

単元（題材）計画を考える

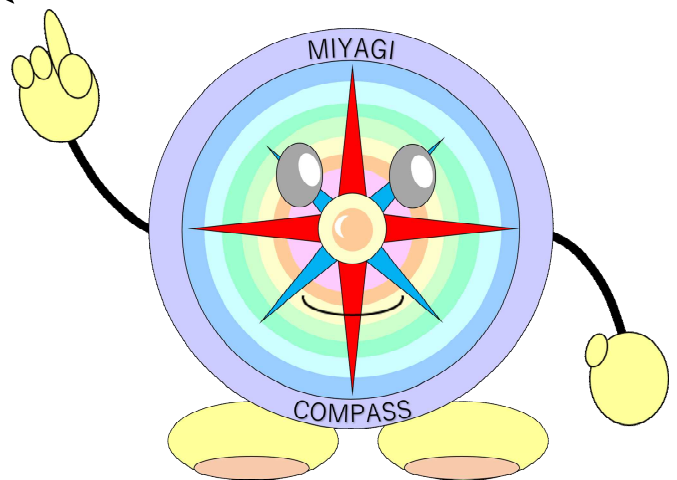
「単元（題材）の目標」と「単元（題材）の個別の目標」を踏まえて、単元（題材）計画を考えます。その際、「**単元構想シート**」（p.2-47）を活用し、考えやすい項目から、単元（題材）を計画していきます。

記入例		学年 ○○ 組学級 教科等： 算数		単元構想シート
単元（題材）名		かぞえめいじんになろう		7 時間扱い
期 日		令和○年○月○日～○月○日		場 所 教室
目 標		ものの集まりや数詞と対応した数字の意味を理解できる。〔知識及び技能〕 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 ものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕		
メインの学習活動		学級での当番活動である牛乳配りを想定した課題で、10まで数えられるようになる。		
おおまかな活動の流れ		主な手立て	扱う教科の内容	
1次 既習事項の振り返り（3まで）（1時間） ・牛乳を数える（5まで） 2次 牛乳とストローを数える（5まで）（3時間） ・牛乳だけを数える ・ストローだけを数える ・牛乳とストローを組にして置く 3次 牛乳とストローを数える（10まで）（2時間） ・牛乳だけを数える ・ストローだけを数える ・牛乳とストローを組にして置く 4次 まとめと振り返り（1時間） ・実際の給食場面を想定し、牛乳とストローを数えて置く		○導入の工夫 ・既習事項の確認 ・ICTを活用して、学習課題を拡大提示 ○意欲付け ・実際の生活場面に即した課題 ・具体物を使用 ・「数え名人カード」にシールを貼って賞賛 ○振り返りの工夫 ・活動の様子を振り返る映像の活用	算数 A 数と計算 一人一人の実態に合わせて、どんな手立てが必要？	
目標を達成するには、どんな学習活動を設定する？そして、どんな教材を準備する？				

単元計画を考える際は、「**授業改善の視点**」（**主体的・対話的で深い学び**）（p.2-32～p.2-34）にある「**授業改善に向けた教師の手立て（例）**」を活用して主な手立てを考えてみてください。



「Step3 1単位時間ごとの授業の構想を練る」は、
p. 2-24 からになります。



授業づくりをしてみよう！

各教科等を合わせた指導

（生活単元学習編）



園子先生

- ・ 春から、特別支援学校（知的障害）勤務。小学部所属。
- ・ 今回、「生活単元学習」の授業づくりを行う。
- ・ 担当は4年生。在籍児童は4人。



Dさん

- ・ 知的障害
- ・ ASD



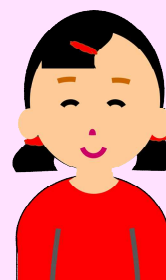
Eさん

- ・ 知的障害
- ・ ダウン症



Fさん

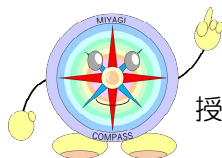
- ・ 知的障害
- ・ ASD



Gさん

- ・ 知的障害
- ・ ASD

Dさんに焦点を当て、一緒に授業づくりをしていきましょう。
らしーもガイドよろしくお願いしますね。



次のページから（p. 2-16～p. 2-23）、各教科等を合わせた指導「生活単元学習」の授業づくりの一例を示しました。

授業の構成図（各教科等を合わせた指導）

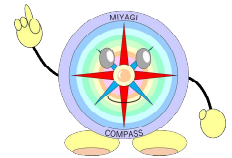


**児童生徒の実態から、年間指導計画に記載されている
単元（題材）で扱う複数の教科等の目標及び内容の調整・見直し**

主体的・対話的で深い学びの視点	単元（題材）の目標 （各教科等を合わせた指導の育成を目指す資質・能力）	指導内容・方法 （扱う教科等の目標及び内容）	個別の目標 （各教科等を合わせた指導の育成を目指す資質・能力）	
	単元（題材）の評価規準 （3観点）		個別の評価規準 （3観点）	
	授業実践			
	単元（題材）の評価 （3観点） 扱う教科等の単元（題材）の評価 （3観点）			個別の評価 （3観点） 扱う教科等の個別の評価 （3観点）
授業の評価・改善				

次の授業実践へ

「各教科等を合わせた指導」の授業づくりでは、年間指導計画に記載されている単元（題材）で扱うことにしている複数の教科等について、目標及び内容を調整・見直しをする必要があります。その上で、児童生徒の実態に合わせて単元（題材）の目標を設定していきます。



第1章

第2章（教科別の指導）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

Step 0 事前に確認する



事前の確認とは、どんなことをすればよいですか？

授業づくりは、この単元（題材）はどんな学習をするのかを事前に確認することから始めます。まずは、学校の年間指導計画を基に、これから計画する単元（題材）と他単元（題材）との関連、行事との関連等を確認しましょう。

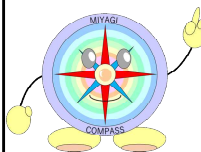


〇〇支援学校 小学部中学年 生活単元学習 年間指導計画一覧

単元名 時期 時数	目標 知→〔知識及び技能〕、思→〔思考力・判断力・表現力等〕、 学→〔学びに向かう力・人間性等〕	主な学習活動	扱う教科の内容
目指せ！お買い物達人！ 5月 10時間	知 買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができる。 思 買い物に必要なやり取りを店員とすることができる。 学 買い物を通して、人と関わるよさに気づき、手順に沿って、自分なりの方法で買い物をしようとする。	・お金の計算 ・商品名を読む ・模擬買い物学習 ・スーパーマーケットで買い物	生活 キず伝い・仕事 ク金銭の扱い 国語 A 聞くこと・話すこと 言葉の特徴や使い方 算数 A 数と計算
みんなて校外 学習に行こう 6月 8時間	知 いつ、どこで、何をやるのが分かって行動することができる。 思 遊びたい遊具を選んだり、自分の思いを伝えたりして、施設内の活動を楽しむことができる。 学 教師や友達と関わり合いながら、マナーやルールを守って活動に取り組もうとする。 学 学校外での活動を通して、自分の興味・関心の幅を広げようとする。	・オリエンテーション （日時、場所、活動内容、 約束、荷物等の確認） ・しおり作り ・買い物学習 ・振り返り	生活 ウ日課・予定 ケきまり コ社会の仕組みと公 共施設 国語 B 書くこと C 読むこと 算数 A 数と計算
遠足に行こう 11月 8時間	知 いつ、どこで、何をやるのが分かって行動することができる。 思 見たい生き物を選んだり、自分の思いを伝えたりして、施設内の散策を楽しむことができる。 学 教師や友達と関わり合いながら、マナーやルールを守って活動に取り組もうとする。 学 学校外での活動を通して、自分の興味・関心の幅を広げようとする。	・オリエンテーション （日時、場所、活動内容、 約束、荷物等の確認） ・しおり作り ・買い物学習 ・振り返り	生活 ウ日課・予定 ケきまり コ社会の仕組みと公 共施設 国語 B 書くこと C 読むこと 算数 A 数と計算

上記のような「生活単元学習 年間指導計画」を作成している場合は、単元ごとに扱う教科とその内容が確認できます。実際に授業の計画を立てる際は、児童生徒の実態に合わせて、各教科の段階の内容を確認し、具体的な指導内容・方法を考えていきます。

また、年間指導計画を確認する際、5月の買い物学習が、6月「校外学習に行こう」や11月「遠足に行こう」の買い物学習に発展していく等の単元の系統も意識できるので、繰り返し指導していくことにつなげていきましょう。



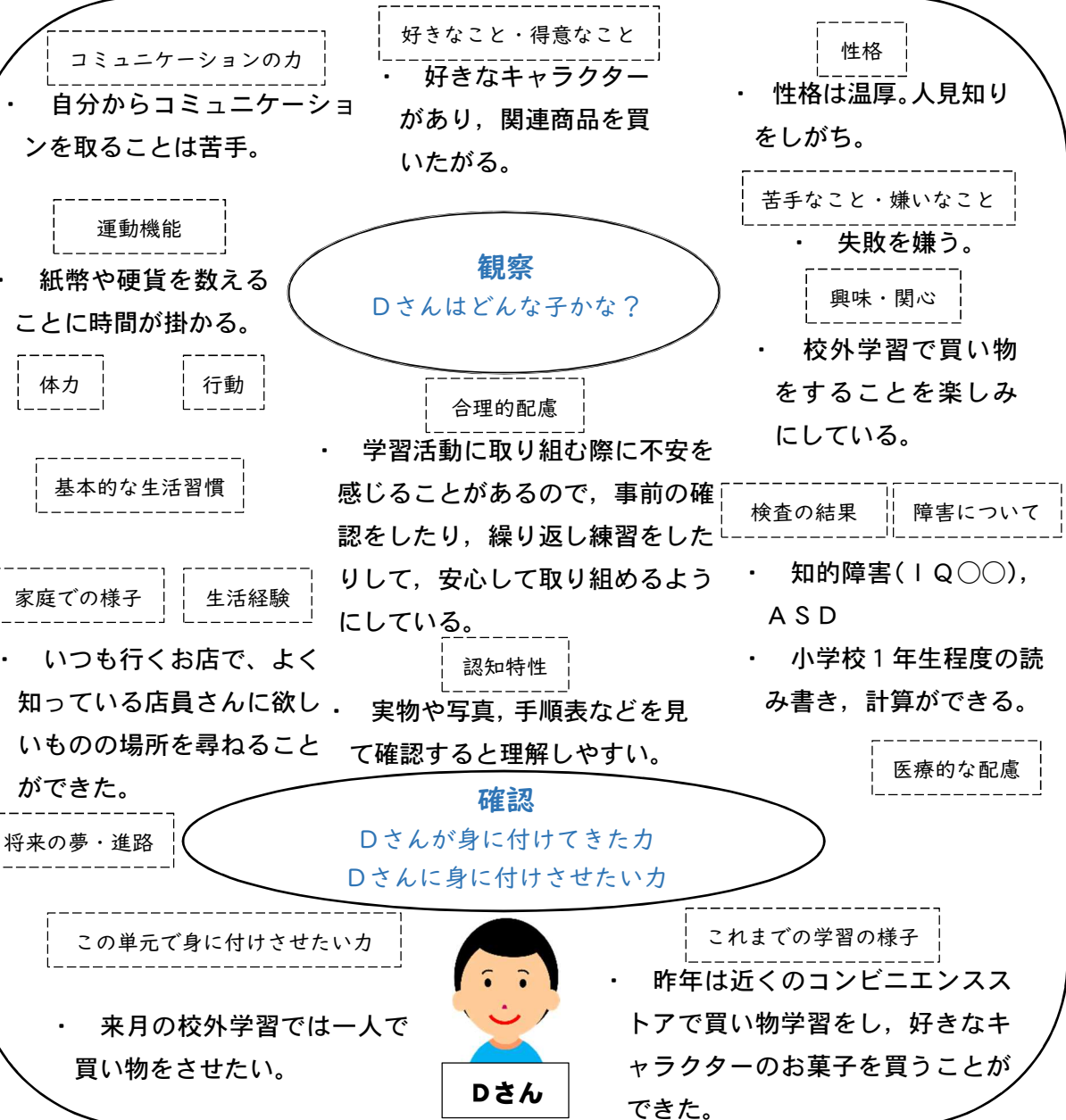
Step 1 実態を把握する



どうやって実態を把握すればよいですか？

児童生徒の障害の状態や個性は、一人一人異なります。そのため、授業づくりにおいては、的確な実態把握が大切です。障害名や診断名を参考にしつつも、目の前の児童生徒一人一人の姿を見つめましょう。例えば、休み時間に一緒に遊んだり、話をしたりすることで、児童生徒の姿が見えてきますよね。

生活単元学習「目指せ！お買い物達人！（買い物学習）」をするにあたって、Dさんの実態把握をし、単元と関わりのある部分を抜き出してみたのが以下のものです。



観察するとき… 一緒に関わりながら観察したり、少し離れたところから他の教員や友達と関わりながら観察したり、一人での過ごし方を観察したりします。

確認するとき… 「保護者からの聞き取り」「本人の言動」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「昨年からの引き継ぎ」「他の教員からの聞き取り」「検査の結果とその解釈」等を参考にします。

Step 2 単元（題材）の構想を練る



単元（題材）の構想を練るとは、何をすればよいですか？

この単元（題材）における児童生徒の「育成を目指す資質・能力」は何かを考えながら、以下の内容を検討します。



- ・ 単元（題材）の目標を考える
- ・ 単元（題材）の評価規準を考える
- ・ 設定した単元（題材）の目標と評価規準の整理をする
- ・ 単元（題材）の個別の目標を考える
- ・ 単元（題材）の個別の評価規準を考える
- ・ 単元（題材）計画を考える

目標と評価規準の設定について、もっと詳しく知りたい場合は、 p. 2-36～p. 2-45 を読んでくださいね。

単元（題材）の目標を考える

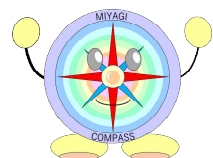
単元（題材）の目標は、育成を目指す資質・能力の三つの柱で設定します。単元（題材）の目標が、年間指導計画に記載されている場合、昨年度の児童生徒の実態からそれぞれの単元（題材）の目標と指導内容・方法（学習活動）が設定されていることもあります。そこで、実際に授業を行う前には、今年度の指導する児童生徒の実態を踏まえ、昨年度に設定した単元（題材）の目標や指導内容・方法を適宜修正し、授業づくりを行います。

単元（題材）の目標の表記

観点別目標	文末例
知識及び技能	～ができる。分かる。 理解する。身に付ける。 等
思考力，判断力，表現力等	～ができる。考える。 広げる。 等
学びに向かう力，人間性等	～しようとする。親しむ。 豊かにする。 等

（文末例は各教科の表記（p. 2-10）を参考にしています）

単元（題材）の目標設定の際には、**「授業改善の視点」（主体的・対話的で深い学び）**（p. 2-32～p. 2-34）にある**「主体的・対話的で深い学びをしている知的障害のある児童生徒の具体的な姿（例）」**を活用してみてください。



単元（題材）の評価規準を考える

児童生徒が、「設定した単元（題材）の目標を達成した姿」を具体的に考えて、学習評価を行うための評価規準を設定します。単元（題材）の評価規準は、観点別学習状況評価の3観点で設定します。

評価規準の表記

評価規準	文末例
知識・技能	～している。
思考・判断・表現	～している。
主体的に学習に取り組む態度	～しようとしている。

（文末例は各教科の表記（p. 2-11）を参考にしています）

単元（題材）の目標及び評価規準の設定例

例：小学部 生活単元学習「目指せ！お買い物達人！（買い物学習）」

	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
単元 の 目 標	買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物を <u>することができる</u> 。	店員と買い物に必要なやり取りを <u>することができる</u> 。	買い物を通して，人と関わることのよさに気づき，手順に沿って，自分なりの方法で買い物を <u>しようとする</u> 。

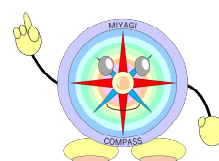


	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物を <u>している</u> 。	店員と買い物に必要なやり取りを <u>している</u> 。	手順に沿って，自分なりの方法で買い物を <u>しようとしている</u> 。

「学びに向かう力，人間性等」の評価規準を設定する際，観点が「主体的に学習に取り組む態度」に変わる理由については，p. 2-36 をご覧ください。

単元（題材）の目標について，「教科別の指導」では，教科の目標及び内容を基に設定します。「各教科等を合わせた指導」では，実際的な生活場面で発揮される具体的な姿を設定します。

「各教科等を合わせた指導」の場合，単元（題材）の目標が具体的にになれば，評価規準が目標と同じ内容になります。単元（題材）の目標を，更に具体的にした評価規準を設定するという考え方もあります。



設定した**単元（題材）の目標と評価規準の整理**をする

単元（題材）の目標と評価規準を設定する際は、「**目標・評価規準設定シート**」（p. 2-46）を活用して整理しておくとし、T・Tの場合教員間で共通理解が図りやすくなります。

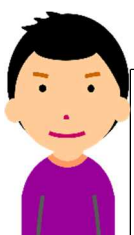
記入例	4 学年 組 学級 教科等 生活単元学習	目標・評価規準 設定シート
単元（題材）名	目指せ！お買い物達人！	10 時間扱い
期 日	令和〇年〇月〇日（〇）～〇月〇日（〇）	場 所 教室，スーパーマーケット
児童生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学級4名 ・ 3名がASD ・ 発語に差が見られるなど，コミュニケーションや認知は多様。 ・ 同種類の硬貨であれば指定された金額を用意することができる。 ・ 指定された金額を異なる種類の硬貨を組み合わせることは難しい。 ・ これまで近くのコンビニエンスストアでジュースやお菓子を買う経験をしている。 ・ 買い物の活動は意欲的である。 ・ スーパーマーケットでは，一人で支払いができる児童と，保護者と一緒なら支払いができる児童など様々である。 	
目 標 ※ 年間指導計画の目標から児童生徒の実態に応じて，適宜修正	<p style="text-align: right;">買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物をすることができる。〔知識及び技能〕</p> <p style="text-align: right;">店員と買い物に必要なやり取りをすることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕</p> <p style="text-align: right;">買い物を通して，人と関わることのよさに気付き，手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとする。〔学びに向かう力，人間性等〕</p>	
扱う教科の内容	<p>生活 キ 手伝い・仕事，ク 金銭の扱い</p> <p>算数 A 数と計算</p> <p>国語 ア 言葉の特徴や使い方，A 聞くこと・話すこと</p>	
評価規準	<p style="text-align: right;">買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物をしている。（知識・技能）</p> <p style="text-align: right;">店員と買い物に必要なやり取りをしている。（思考・判断・表現）</p> <p style="text-align: right;">手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）</p>	



Dさん
・ 知的障害
・ ASD



Eさん
・ 知的障害
・ ダウン症



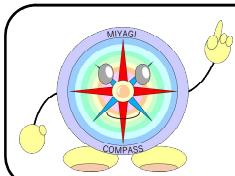
Fさん
・ 知的障害
・ ASD



Gさん
・ 知的障害
・ ASD

単元（題材）の個別の目標を考える

児童生徒の実態と関連する各教科等の目標及び内容、単元（題材）の目標を踏まえて、単元（題材）で達成させたい児童生徒の目標を設定します。



単元（題材）の個別の目標や評価規準を設定する際にも、**「目標・評価規準設定シート」**（p. 2-46）を活用することができます。

単元（題材）の個別の評価規準を考える

単元（題材）の個別の目標を踏まえて、単元（題材）の個別の評価規準を設定します。目標が達成される**具体的な姿**を考え、学習評価を行うための評価規準を設定します。

単元（題材）の個別の目標及び評価規準の設定例

例：小学部 生活単元学習「目指せ！お買い物達人！（買い物学習）」

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元の個別の目標	買い物の手順を理解し、金銭を用いて一人で買い物を <u>することができる</u> 。	レジで店員と買い物に必要なやり取りを一人です <u>ることができる</u> 。	普段関わりの少ない人と関わることの緊張を乗り越え、教師の促しがなくても進んで買い物を <u>しようとする</u> 。

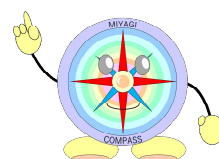
単元の評価規準→



	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の個別の評価規準	買い物の手順を理解し、金銭を用いて一人で買い物を <u>している</u> 。	レジで店員と買い物に必要なやり取りを一人です <u>している</u> 。	教師の促しがなくても進んで買い物を <u>しようとしている</u> 。

単元（題材）を終了した際には、扱う教科等の評価も行います。単元（題材）を通して、児童生徒が身に付けた力について、扱う教科の目標及び内容で分析し、評価することが大切です。 **Step 5**（p. 2-29）を参考にしてください。

p. 2-10 から紹介している「教科別の指導」の目標や評価規準の設定を参考にし、教科等の評価も行うことができるようにしましょう。

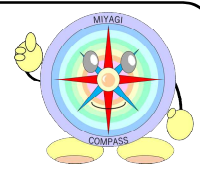


単元（題材）計画を考える

「単元（題材）の目標」を踏まえて、単元（題材）計画や扱う教科の内容を考えます。その際、「**単元構想シート**」（p. 2-47）を活用し、考えやすい項目から、単元（題材）を計画していきます。

記入例		単元構想シート	
4	学年	1	組 学級
教科等：		生活単元学習	
単元（題材）名	目指せ！お買い物達人！		10 時間扱い
期 間	令和〇年〇月〇日～〇月〇日		場 所 教室，スーパーマーケット
目 標	<p>買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができる。 〔知識及び技能〕</p> <p>店員と買い物に必要なやり取りをすることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕</p> <p>買い物を通して，人と関わることよさに気づき，手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとする。 「学びに向かう力，人間性等」</p>		
メインの学習活動	スーパーマーケットに行って，家族に頼まれたものを買う。		
おおまかな活動の流れ	主な手立て	扱う教科の内容	
<p>1次 お買い物の計画（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族から頼まれたものを買うに行く経験 ・買い物に必要な学習 →店員とのやり取り →お金の学習 <p>目標を達成するには，どんな学習活動を設定する？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲付け ・品物の写真 ・家族の依頼動画 ○お金の学習 ・硬貨 ・タブレット端末 	<p>生活キ 手伝い・仕事</p> <p>生活ク 金銭の扱い</p> <p>算数A 数と計算</p> <p>扱う教科の内容は？</p>	
<p>2次 教室で買い物学習（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮想のお店で買い物学習 ・店員役とお客役に分かれてやりとりする <p>どんな教材を準備する？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬買い物学習 ・店の看板，エプロン ・タブレット端末 ・レジ籠 	<p>生活キ 手伝い・仕事</p> <p>生活ク 金銭の扱い</p> <p>国語A 聞くこと・話すこと</p> <p>国語ア 言葉の特徴や使い方</p> <p>算数A 数と計算</p>	
<p>3次 スーパーマーケットで買い物学習（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットで買い物学習（校外学習） ・家族に頼まれたものを買う <p>一人一人の実態に合わせて，どんな手立てが必要？</p>		<p>生活キ 手伝い・仕事</p> <p>生活ク 金銭の扱い</p> <p>国語A 聞くこと・話すこと</p> <p>算数A 数と計算</p>	
<p>4次 振り返り（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族からのお礼動画を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲付け ・家族からのお礼動画 	<p>生活ク 金銭の扱い</p> <p>国語A 聞くこと・話すこと</p>	

単元（題材）計画を考える際は、「**授業改善の視点**」（主体的・対話的で深い学び）（p. 2-32～p. 2-34）にある「**授業改善に向けた教師の手立て（例）**」を活用して主な手立てを考えてみてください。



第1章

第2章（教科別の指導）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

※ここからは「教科別の指導」「各教科等を合わせた指導」に分けず、共通の内容になります。

Step 3 | 単位時間ごとの授業の構想を練る



1 単位時間の授業の構想を練るには、どのようにすればよいですか？

1 単位時間ごとの授業の構想を練る際には、本時において具体的にどのような指導や支援をしようか考えながら、以下の流れで行います。



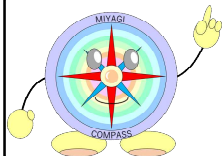
- ① 本時の目標及び評価規準を考える。
- ② 本時の個別の目標及び評価規準を考える。
- ③ 本時の指導過程を考える。
- ④ 本時の具体的な個別の支援を考える。

① 本時の目標及び評価規準を考える。

- ・ Step 2 で考えた単元（題材）の構想（「目標・評価規準設定シート」「単元構想シート」）を基に、「本時の目標及び評価規準」を設定します。教科によっては、1 時間ごとに目標や評価規準を設定する場合があります。数時間単位の小単元（題材）ごとに目標を設定する場合でも、常に児童生徒の学習の様子を見て、以降の授業や指導に生かすことを心掛けます。
- ・ 毎時間、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点について評価することは現実的ではありません。構成した単元（題材）に応じてバランスよく評価します。1 時間の授業で、全ての観点を評価するのではなく、1～2 項目に絞って設定することが多いです。
- ・ 単元（題材）の2 時間目以降は、前時までの学習活動の様子を基に修正することも考えられます。

② 本時の個別の目標及び評価規準を考える。

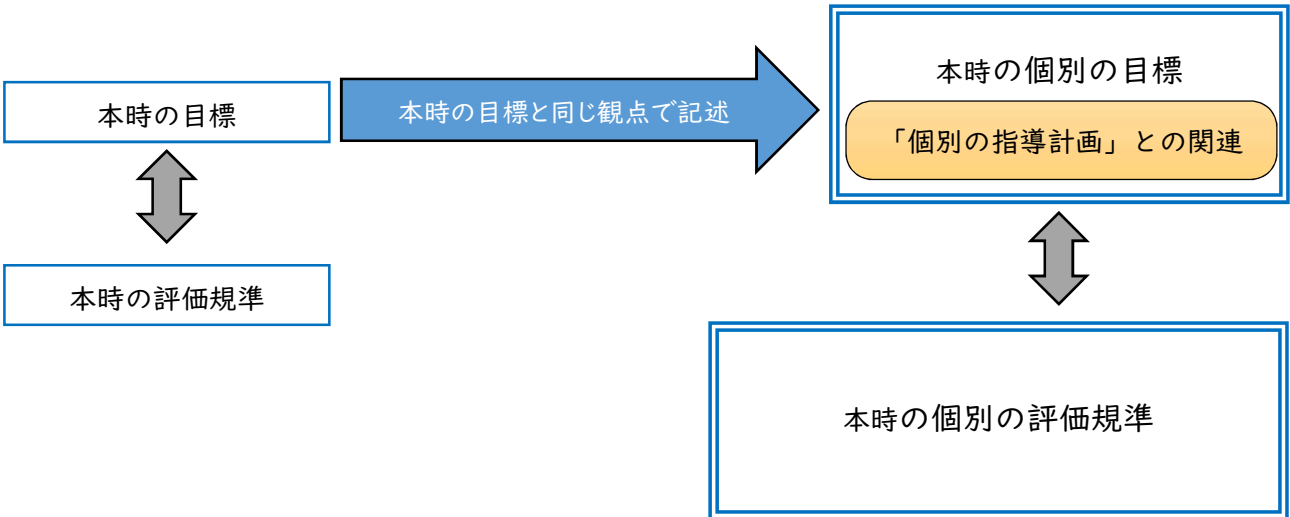
- ・ 「本時の目標」として設定した目標に合わせ、一人一人の実態に合わせて具体的に考えます。
- ・ 「個別の指導計画」の目標を関連させます。
- ・ 特別支援学校、特別支援学級では、その授業の目標が達成できたかどうかは、個々の児童生徒の「個別の目標」の達成度によって決まります。
- ・ 1 単位時間ごとの個々の学びをより丁寧に見ていくことができるように、1 単位時間ごとの「個別の目標」に対する「個別の評価規準」が重要になります。



児童生徒の「個別の指導計画」に設定されている自立活動や各教科等の目標の達成に向けて、「個別の目標」が設定されます。

その際、「1 単位時間ごとの個別目標」は、スモールステップで達成させたい内容を、考えてみるとよいですよ。

○本時の目標と評価規準の関係



「教科別の指導」では、「個別の目標」に対する「個別の評価規準」は、個別の目標に関して具体的に「何ができれば、目標を達成した姿と言えるか？」を考えて設定します。
 まずは、「教科別の指導」について一緒に考えてみましょう。



「教科別の指導」の算数科「かぞえめいじんになろう」第1時の目標と評価規準，指導過程を考えてみました。

例：算数科「かぞえめいじんになろう」

③ 本時の指導過程を考える。

- ・ 略案等に具体的に書き表して、指導の流れ等をイメージしやすくします。

○ 算数科の略案

記入例		略案シート	
○○学級 算数科「かぞえめいじんになろう」略案			
日時 令和○年○月○日○：○○～○：○○			
場所 ○○学級 教室			
指導者 ○○ ○○			
単元（題材）名	かぞえめいじんになろう		1時間目 / 7時間扱い
本時の目標	・ 5までのものの集まりと数詞を対応して数えることができる。 [知識及び技能]		
扱う教科の内容	算数 A 数と計算		
段階	学習活動	指導上の留意点	備考（準備物等）
	○主な発問 ・ 指示 ◆予想される児童の反応		
10分 導 入	1 始めの挨拶をする。	日直に注目するよう促す。	
	2 本単元の学習内容を知る。 ・ 動画を見ます。 ◆静かに見ている。 ◆早くやりたくてウズウズしている。	今まで給食の手伝いをしてくれた6年生からのメッセージ動画を使用し、本単元の課題を提示する。 Aさんの学習に取り組みたい気持ちに共感し、意欲を高める。	電子黒板 タブレット端末 動画
	3 既習事項を振り返る。 ・ 3までのものを数えます。 ◆指さしに合わせて数を数える。 ◆Bさんは、発語はないが、指さしをして数える。	みんなが注目できるように、課題を拡大提示する。 指さしをする児童（Bさん）と数唱をする児童（AさんとCさん）で協力しながら数えることで、児童同士の学び合いを促す。	ストロー
	4 本時のめあてを知る。 ぎゅうにゅうをかぞえよう。 ・ 今日めあてを読みます。 ◆みんなと一緒に声を出して読む。	クラスの数である5人分を配る課題を提示する（児童3人、担任、支援員分）。 みんなの声に合わせて指さしするようBさんを支援する。	

次は、「各教科等を合わせた指導」について一緒に考えてみましょう。
 「各教科等を合わせた指導」では、「個別の目標」が単元（題材）の目標と同様に具体的に設定されています。

「個別の評価規準」は、目標と同じ内容が設定されることもあります。個別の目標に関して、更に具体的に「何ができれば、目標を達成した姿と言えるか？」を考えて設定する場合がありますよ。



「各教科等を合わせた指導」の生活単元学習「目指せ！お買い物達人！」第7時の目標と評価規準，指導過程を考えてみました。

例：生活単元学習「目指せ！お買い物達人！」

本時の目標

- ・ 決められた品物を選び，必要な金額を用意して買い物をすることができる。
〔知識及び技能〕
- ・ 店員役とお客役に分かれ，買い物のやり取りをすることができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕



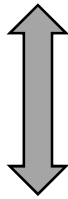
本時の個別の目標

- ・ レジで，買う品物に対して，必要な金額を準備し，支払いをすることができる。
〔知識及び技能〕
- ・ レジで，店員役やお客役と言葉を交わしながらやり取りをすることができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕

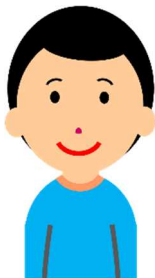
「個別の指導計画」との関係
 自立活動の目標

- ・ 気持ちを落ち着けて周囲の人とやり取りができる。
心理的な安定(1)(3)
コミュニケーション(1)(5)

※自立活動が関連する理由は p. 1-10 をご覧ください。



本時の評価規準（省略）



本時の個別の評価規準

- ・ ちようどの金額を一人で支払っている。
（知識・技能）
- ・ 自ら「お願いします。」「ありがとうございました。」などの言葉を添えてやり取りをしている。
（思考・判断・表現）

③ 本時の指導過程を考える。

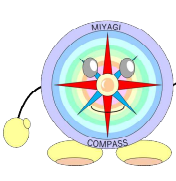
- ・ 略案等に具体的に書き表して、指導の流れやT・Tの役割分担などをイメージしやすくします。

○ 生活単元学習の略案

記入例	小学部 4年1組 生活単元学習「目指せ！お買い物達人！」略案			略案シート
		日時	令和〇年〇月〇日〇：〇〇～〇：〇〇	
		場所	小学部4年1組 教室	
		指導者	〇〇 〇〇（T1） 〇〇 〇〇（T2）	
単元（題材）名	教室スーパーでお買い物チャレンジ！		7時間目／10時間扱い	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決められた品物を選び、必要な金額を用意して買い物をすることができる。 [知識及び技能] ・ 店員役とお客役に分かれ、買い物のやり取りをすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] 			
扱う教科の内容	生活キ 手伝い・仕事，生活ク 金銭の扱い 国語A 聞くこと・話すこと，国語ア 言葉の特徴や使い方 算数A 数と計算			
段階	学習活動	指導上の留意点		備考（準備物等）
導入 5分	1 始めの挨拶をする。 2 本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日直の合図に合わせるように声掛けをする。 ・ Cさんには、学習計画表に着目させる。（T2） 		学習カレンダー 学習計画表
展開 30分	3 お買い物チャレンジ ①動画や表を見て役割内容を確認する。 ②店員と客役を決める。 ③役割を交代する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物の手順を口頭で質問しながら確認する。 ・ 適時手順表を見るよう促したり、活動をやり直させたりする。 ・ Dさんには動画に注目するように促す。（T2） 		タブレット端末 プロジェクター 顔写真カード 品物，レジ籠 硬貨，レシート 手順表

④ 本時の具体的な個別の支援を考える。

- ・ 1単位時間ごとの授業について、「個別の目標」を達成するための具体的な支援を考えます。



指導過程や個別の支援を考える際は、常に児童生徒の実態を頭に浮かべながら、考えてみましょう。また、**「授業改善の視点」（主体的・対話的で深い学び）**（p. 2-32～p. 2-34）を参考にしてみてください。

略案に、基本的には決まった形式はありませんが、「みやぎ授業づくりガイド」で用いている**「略案シート」**（p. 2-48）を活用してみてください。

Step 5 授業を振り返る



授業を振り返るポイントは何がありますか？

授業が終了したら、次の授業に向けて、以下の4つの視点で振り返りをしましょう。



視点① この授業で児童生徒の個別の目標は達成できたか？

- 児童生徒の学習状況を、児童生徒の様子（表情、反応、声の大きさ、動作等）から評価します。

[評価の根拠となるもの・材料とするもの]

- 発達段階に応じて、振り返りシートを記入したり、タブレット端末等で質問に答えたりする様子。
(文字を書くことが苦手な児童生徒には、気持ちや表情、到達状況を表すイラストやマークを使用する。)
- 児童生徒が写真や動画を見て、自分の変容に気付いたときの言動。
- 児童生徒が授業の終結部分で発表した、感じたことや考えたことの内容。

- 「教科別の指導」の場合は、『『各教科』における学習評価の進め方例（小学校・中学校高等学校）」(p.2-31)を参考にしてください。
- 「各教科等を合わせた指導」の場合は、単元（題材）の評価と**単元（題材）で扱う教科の評価**をします。

例：小学部 生活単元学習「目指せ！お買い物達人！」 Dさん

単元の個別の目標	扱う教科の実態 (教科名・段階・内容のまとめ)
買い物の手順を理解し、金銭を用いて一人で買い物をすることができる。[知識及び技能]	生活・3・ク金銭の扱い・(イ) 国語・3・A聞くこと・話すこと・オ
レジで店員と買い物に必要なやり取りを一人ですることが出来る。[思考力、判断力、表現力等]	算数・3・A数と計算・イ(イ)㊦
普段関わりの少ない人と関わることの緊張を乗り越え、教師の促しがなくても進んで買い物をしようとする。「学びに向かう力、人間性等」	生活・2・段階の目標ウ ※自立活動・心理的な安定(1)(3)

↓

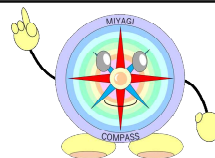
単元の個別の評価規準	扱う教科の個別の評価 (教科名・段階・内容のまとめ・内容)
指定された品物を見付け、かごに入れてレジに持っていき、店員とやり取りしながらお金を支払うことができた。(知識・技能)	生活・3・ク金銭の扱い・(イ) 国語・3・A聞くこと・話すこと・オ
示された金額を見て、自分で判断しその金額より多いお金を10円玉で払うことができた。(思考・判断・表現)	算数・3・A数と計算・イ(イ)㊦

練習を重ねることで買い物の仕方を覚え、校外学習では、落ち着いてやり遂げ、無事に終わったときには笑顔が見られた。（主体的に学習に取り組む態度）

生活・2・段階の目標ウ

※自立活動・心理的な安定(1)(3)

「各教科の内容表」(p. 3-25) で確認してみてください。



【留意点】・ 単元の個別の評価では、児童生徒ができたこと、伸びたことを見取っていきます。当然、扱う教科の個別の評価には児童生徒ができたこと、伸びたことを教科の目標及び内容を段階まで示しています。

- ・ 変容が見られなかった場合は、学習の過程や可能性を記録し、次の指導に生かします。
- ・ 「自立活動の指導 (p. 1-10)」は、各教科等の指導とも密接な関わりがあり、「各教科等を合わせた指導」の中で行うこともあります。そのため、単元（題材）で自立活動に関する変容が見られた場合、評価として記録します。

視点② 授業者として、実施した授業の良かった点や反省点は何だったか？

- ・ 単元（題材）を通して、児童生徒の変容を客観的に見取ります。
- ・ 授業実践を振り返り、授業に関する計画，内容，方法等の評価をします。

[評価の視点]

- ・ 授業のねらいは達成できたか？
- ・ この授業で児童生徒の「資質・能力」の目標を達成させることができたか？

[評価方法（例）]

- ・ 授業の様子を撮影して振り返る。

授業者自身→自分の話し方，指示の出し方の「くせ」に気付くとよい。

「はい」「うん」などの相づちの打ち方等も確認。

児童生徒に寄り添うときの立ち位置，背後からか，横からか 等

T・T→役割は明確になっていたか，配置や動線はどうだったか 等

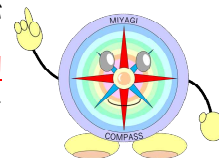
- ・ 授業を参観してもらう（校内研究などで）。
- ・ 授業分析をする。

T・Tなど複数の教員で授業を行っている場合，テーマを絞って話し合う。

視点③ 指導の良かった点は、今後どのような指導に生かすことができるか？

視点④ 指導の反省点を今後に生かすとすれば、どこを改善できるか？

授業改善のためには、具体的な児童生徒の姿や反応を累積して変容を見ながら、次の授業を考えていくことが大切です。「**授業改善の視点**」(主体的・対話的で深い学び) (p. 2-32～p. 2-34) を挙げました。児童生徒の評価に活用してみてください。



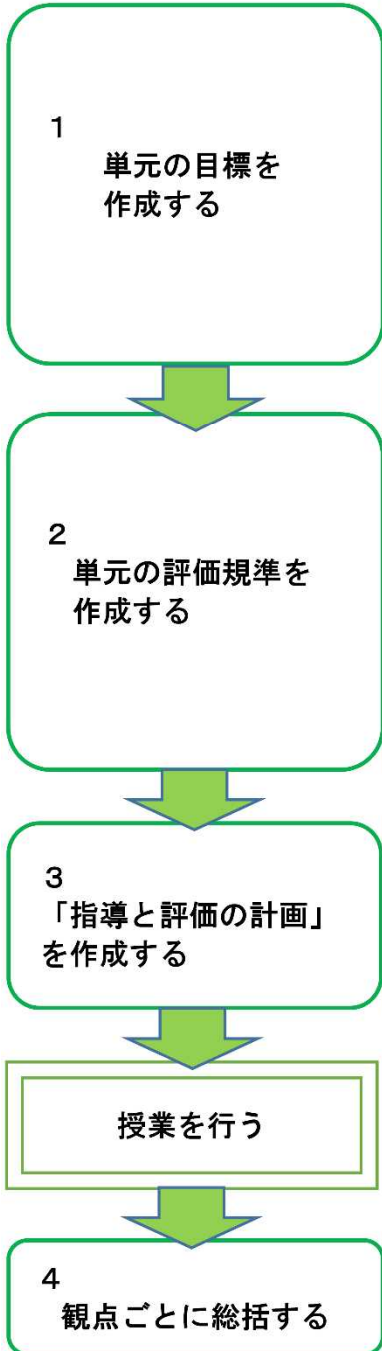
参考

「各教科」における学習評価の進め方の例

（小学校，中学校，高等学校）

評価の進め方

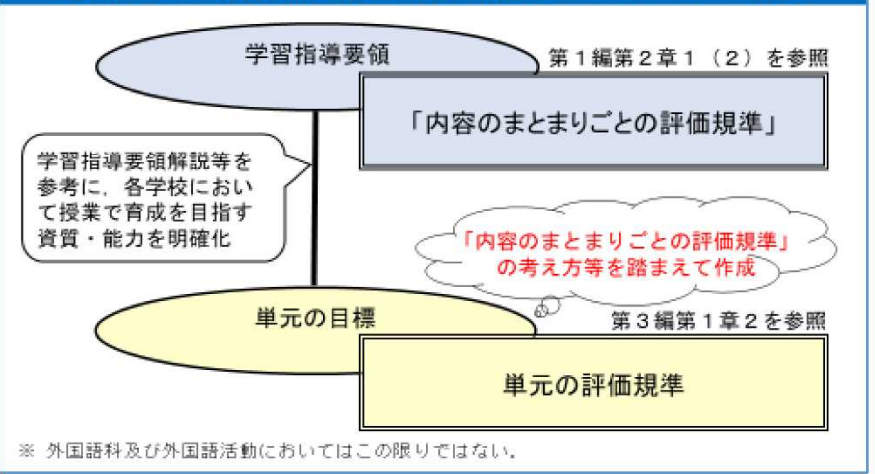
留意点



- 学習指導要領の目標や内容，学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態，前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

※ 単元の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照

単元の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



- 1，2を踏まえ，評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート，ワークシート，作品等）を基に，「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり，「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い，生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの総括的评价（A，B，C）を行う。

（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」）

※ 上記「生徒」の記述は，小学校では「児童」

※ 上記「単元」の記述は，「図画工作」，「美術」，「音楽」，「技術・家庭」，「芸術（音楽，美術，工芸）」の場合では「題材」

授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）

主

主体的な学び
をしている時
の知的障害の
ある児童生徒
の**具体の姿**
(例)

[学ぶことに興味や関心を持っている姿]

- ・ 教師や友達の活動，提示した物を目で追ったり触ろうとしたりしている。
- ・ 教師や友達の活動をまねたり，一緒に取り組んだりしている。
- ・ 積極的な発言や「なぜ」「知りたい」などの発言が見られる。

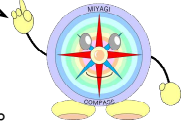
[自己のキャリア形成の方向性と関連付けている姿]

- ・ 「もっとしたい」「できるようになりたい」「できるようになった」という思いを表現している。

指導目標や評価規準を設定するときの
ヒントにしてください。

[見通しを持っている姿]

- ・ 次の活動をイメージした行動をしている。



[粘り強く取り組んでいる姿]

- ・ 課題を繰り返し行ったり，粘り強く取り組んだりしている。
- ・ もっと良い方法を探ろうとしたり，解決方法を考えたりしている姿が見られる。

[自己の学習活動を振り返って次につなげる姿]

- ・ 自分の良かったところ，次にやってみたいことを話したり，表現したりしている。

[題材の工夫]

- ・ 得意なことから始め，もう少しでできそうなことに挑戦できるようにする。
- ・ 児童生徒の生活経験などから，具体的にイメージできる題材を用意する。

[提示の工夫]

- ・ 授業の導入で，期待を持たせる工夫をする。
- ・ 見え方に配慮した位置や大きさにしたり，タイミングや間，見せ方を工夫したりする。
- ・ 言葉だけでなく，写真や具体物を提示する。

指導方法を考えるときの
ヒントにしてください。



[自己選択・自己決定の場]

- ・ いくつかのものから，
選択できるような題材にする。

授業改善に向
けた**教師の手
立て** (例)

[キャリア形成の視点]

- ・ 憧れの仕事，身近な仕事，などに触れる機会を多く設け，その仕事に就くにはどんな力を身に付けたらよいか考えられるようにする。

[見通しを持たせる工夫]

- ・ 授業の導入での見通しが持たせることができるように，授業の内容・順番を視覚化する。
- ・ 授業の最後に振り返りカードなどで，その時間の振り返りと次の目標を関連付けていく。
- ・ 単元（題材）や授業の中で身に付けたい力（めあて・目標）を明確に示し，意識付けする。

[時間の確保]

- ・ 児童生徒の考える時間，活動時間を確保する。

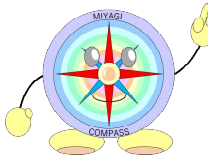
[称賛の工夫]

- ・ できたら，称賛を繰り返したり，シールなどで賞賛を可視化したりする。

<p style="text-align: center;">対</p> <p>対話的な学び をしている時 の知的障害の ある児童生徒 の具体の姿 (例)</p>	<p>[子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深めている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達が話しているところを見たり、聞いたり、うなずいたりしている。 ・ 他の児童生徒の作品に関心を持っている。 ・ 児童生徒同士が話し合ったり、意見の交換をしたりしている。 ・ 話合いで、自分の考えを広げている。 <p>[教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深めている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員が話しているところを見たり、言葉を聞いたりしている。 ・ 教職員の質問に答えたり、対話したりしている。 <p>[地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深めている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人や自分に関わりのある人と触れ合ったり、会話したりしている。 <p>[先哲の考え方を手掛かりに考えている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像や本を通して、先人や作者の思いや考えに触れている。 ・ 映像や本を通して、登場人物の思いや行動に触れている。 ・ 教職員や関わりのある人との対話を通じて、考えている。 <p>[対話を通じ自己の考えを広げ深めている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発語はないが、音や匂い、触覚などの外的な刺激に反応している。 ・ 友達や教職員・地域の人との対話を通じて、自分の考えを広げ深めている。
<p>授業改善に向 けた教師の手 立て(例)</p>	<p>[表現の方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを音声言語や文字で表現するのが難しい場合は、表情や言葉を表すカードやICTを用いる。 ・ 言葉だけでなく、音や絵等の作品など様々な表現方法を取り入れる。 ・ 感じたことを、拍手の数や動作、ジェスチャーで表現し合う。 <p>[選択の機会の設定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語彙が少ない場合は、いくつかの言葉を示し、そこから選択できるようにする。 ・ いくつかの選択肢から「みんなですることを決めよう」と選べるようにする。 <p>[感受の仕方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの学ぶ姿や作品が見えるようにする。 ・ 考えや思いを伝え合う活動を取り入れる。 <p>[場の設定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物学習、職場訪問など多くの人と触れ合える機会を設ける。 ・ ゲストティーチャーとして、地域の人と触れ合えるような機会を設ける。 <p>[教材の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の段階に応じて関心を抱きやすい教材を用意する。 ・ 季節や時期に関する先哲の言葉やエピソードなどを紹介する。 <p>[言語化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発語が厳しいときは、教師が児童生徒の考えを代弁したり、言語化したりする。 ・ 微細な変化も取り上げ、言語化する。

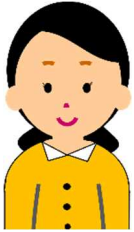
<p style="text-align: center;">深</p> <p>深い学びをしている時の知的障害のある児童生徒の具体の姿（例）</p>	<p>[各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことを働かせながら生活の中で生かそうとしている。 ・ 学んだことを生活の中で働かせている。 <p>[知識を相互に関連付けてより深く理解している姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことを次の授業や活動に生かしている。 ・ 友達と話し合い、よりよい考えを持つ。 <p>[情報を精査して考えを形成している姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いくつかの情報を精査して、自分の考えを持つ。 ・ 習得した知識を結び付けて、社会の中で生きて働く力を身に付ける。 <p>[問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かおうとしている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題や課題の解決策を考える。 ・ 新しい方法を考えている。
<p>授業改善に向けた教師の手立て（例）</p>	<p>[教材の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを生活の中で生かせるように、掲示物や用具に工夫をする。 <p>[見方・考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の見方・考え方を働かせることの学習場面を、計画的に設定する。 <p>[日常生活との関連]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 季節や行事の中で学んだことを発揮できる機会を、意図的に設ける。 ・ 児童生徒が日常生活の中で学んだことを生かせたときに、称賛し、意欲を付けていく。 ・ 学んだことを他の教員や家庭と連携して、他教科や日常生活と関連付ける。 <p>[発問の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことや発展したことに出会ったときは「どうしたらいいかな」と投げ掛ける。 ・ 校内の植物や季節の掲示物などに変化があったときに「なぜかな」「どうしてかな」と投げ掛ける。

（国立教育政策研究所「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」、独立行政法人教職員支援機構「アクティブ・ラーニング研修プログラムモデル～主体的・対話的で深い学びの実現のために～」を基に作成）



特支小中学学習指導要領解説総則編 p. 8 に「**深い学びの鍵として『見方・考え方』を働かせることが重要になる**」とあります。各教科の見方・考え方は、その教科等ならではの物事を捉える考え方です。児童生徒が学習や人生において、「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることが大切です。

知的障害教育の授業づくりについて、「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」に分けて説明してきましたが、参考になりましたか？



私は、「各教科等を合わせた指導」の授業づくりが参考になりました。授業づくりでは、目標設定について、もう少し詳しく知りたいです。



私は、授業づくりに関して、評価規準の設定について、もう少し詳しく知りたいと思いました。

目標及び評価規準の設定については、「[目標及び評価規準について](#)」（p. 2-36～45）を参考にしてみてください。

その他に、授業づくりの参考となる

- ・ [「教材・教具の準備について](#)」（p. 3-33）
- ・ [「特別支援教育の教材・教具について](#)」（p. 3-34）
- ・ [「特別支援教育のICT活用について](#)」（p. 3-35～p. 3-36）
- ・ [「T・T（チーム・ティーチング）について](#)」（p. 3-37）

についても紹介してあります。

また、授業づくりで活用できる

- ・ [「目標・評価規準設定シート](#)」（p. 2-46）
- ・ [「単元構想シート](#)」（p. 2-47）
- ・ [「略案シート](#)」（p. 2-48）
- ・ [「授業づくりチェックシート](#)」（p. 2-49）

を用意してあります。必要に応じて、授業づくりで役立ててください。



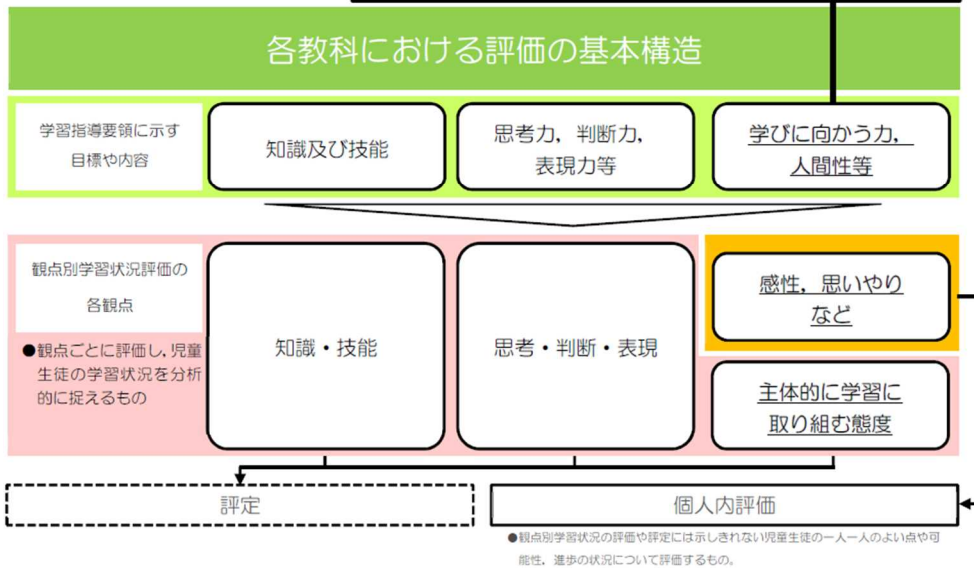
知的障害教育の授業づくりは、奥が深いことが分かりました。子供たちのために、授業づくりを頑張りたいと思います。

各教科の学習評価

学びの連続性の観点から、知的障害者である児童生徒のための各教科の目標や内容について、小学校等と同様に、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理されました。各教科の学習評価についても、小学校等と同様に、観点別学習状況の評価を行います。

ここで、各教科における評価について確認します。

「学びに向かう力、人間性等」には
 ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、
 ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。



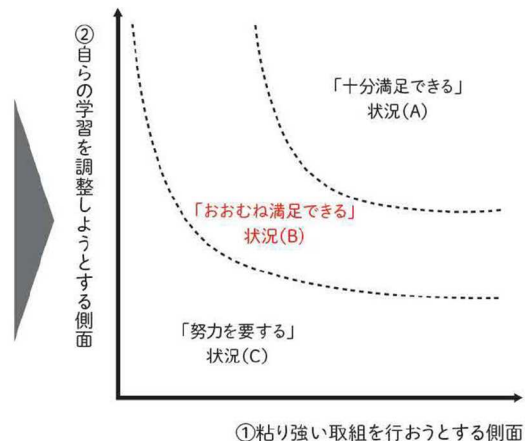
（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」）

「感性、思いやりなど」は観点別学習状況の評価の観点ではないため、学習評価としては行いません。しかし、知的障害を有する児童生徒においては、自己肯定感等を高めるために大切にしたいポイントと考えます。授業の中で児童生徒の良さを見付け、その都度、称賛するといった評価をすることが必要です。

※観点別学習状況の評価についてはp. 1-18でも紹介しています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。
- これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」）

目標及び評価規準について

「みやぎ授業づくりガイド」では、目標や評価規準を設定する際、小学校の生活科や総合的な学習の時間の考えを活用することを提案します。理由は、知的障害の学習上の特性を踏まえた指導の考え方である「実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるように指導することが効果的である」という点と親和性があるからです。p. 2-38～p. 2-45を具体的な目標や評価規準を設定する際の参考にしてください。

目標「知識及び技能」、評価規準「知識・技能」の考え方

目標については、資質・能力を踏まえて考えています（p. 1-17）。評価規準については、知識と技能を分けて考え、具体例を提案します。

目標「思考力、判断力、表現力等」、評価規準「思考・判断・表現」の考え方

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第5章第3節4(2)では、「考えるための技法」を活用することを求めています。この「考えるための技法」は「各教科等において、どのような『思考力、判断力、表現力等』を養いたいかということ踏まえつつ、児童の実態に応じて活用を図ることが期待される。」と記されています（中学校編も同様、高等学校編総合的な探究の時間はほぼ同様）。

この考えを基に、目標及び評価規準の設定ポイントを提案します。

目標「学びに向かう力、人間性等」の考え方

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編で記されている「自分自身に関すること」と「他者や社会との関わりに関すること」は、目標設定の視点になると考えます。

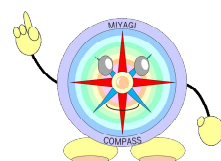
この考えを基に、目標設定の要素を提案します。

評価規準「主体的に学習に取り組む態度」の考え方

特別支援学校でも、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、小学校、中学校、高等学校同様に「粘り強さ」と「学習の調整」の二つの側面から評価することが求められています（p. 2-36下図を参照）。

「みやぎ授業づくりガイド」では、知的障害を有する児童生徒については、「粘り強さ」「学習の調整」に「学習評価に関する参考資料」の小学校生活科で示されている「実感や自信」を加えて考えることにし、具体例を提案します。

「学習評価に関する参考資料」で「学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童生徒の学習評価についても変わるものではない。」と示されています。



目標及び評価規準の設定ポイント

㊦ 知識及び技能

㊧ 知識・技能

第1章

教科別の指導

目標の設定	評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	知識	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習対象などと身に付けてほしい知識 ③ 児童生徒の状態 （具体的な児童生徒の姿「気付いている、分かっている、知っている、理解している」）
	技能	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 身に付けてほしい技能（器用に、素早く、ずっと、いつも、いつでも 等） ③ 児童生徒の行為 （具体的な児童生徒の姿「身に付けている、表している など」）

評価規準設定例（知識）

- 生活 ①遊具で遊ぶ活動において、②滑り台で遊ぶときは、順番があることを③理解している。
 （小学部 2段階エ遊び(イ)）
- 国語 ①友達からものを受け取る活動を通して、②「ありがとう」は、感謝の気持ちを表していることに③気付いている。
 （小学部 2段階ア言葉の特徴や使い方(ア)）
- 社会 ①地域の安全を守る仕事には、警察や消防署などがあり、②地域の人々と協力していることが③分かっている。
 （中学部 1段階ウ地域の安全(ア)㊦）

評価規準設定例（技能）

- 国語 ①挨拶の仕方の学習において、②いつも口の大きさに気を付けて、③話している。
 （小学部 3段階ア言葉の特徴や使い方(イ)）
- 音楽 ①合奏において、②音楽を感じながら安定して、③ハンドベルを演奏（鳴ら）している。
 （小学部 1段階A表現ア音楽遊び(ウ)㊦）
- 職業 ①情報機器の活用に関する学習において、②ローマ字表を見ながら、③キーボード入力をしている。
 （中学部 2段階B情報機器の活用ア）

音楽の技能の評価規準については、小学校の学習指導要領を基に設定する場合、「A表現」の文末は「歌っている」「演奏している」「音楽をつくっている」より選択して作成する。なお、「B鑑賞」の題材においては設定しない。

〔参考〕学習評価に関する参考資料、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」

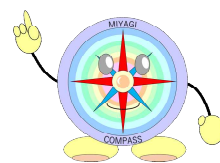
第2章（教科別の指導）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

教科別の評価規準について

知識は、
「児童生徒の気付いている（分かっている、知っている）状態」
 を考えます。
 技能は、
「習得した（習得している）知識を使って、何かをしている状態」
 を考えます。



各教科等を合わせた指導

目標の内容に取り入れるポイント	
知識及び技能	① 学習活動，学習場面，学習状況など ② 児童生徒に身に付く「知識及び技能」 （～ができる。分かる。理解する。身に付ける。できるようにする。等）



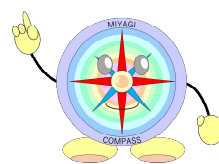
評価規準の設定
設定した単元（題材）の目標を達成した具体的な姿（目標と評価規準が同じになることもある）

目標設定例（知識及び技能）

- 日常生活の指導 ①朝の挨拶をする場面において、②相手の目を見て挨拶することができる。
 （小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において、いろいろな紙を使った②遊び方が分かる。
 （小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ①友達や教師，教室などの②新しい環境を理解し、②環境になじむことができる。
 （小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①木工の作業において、②自分の役割を理解するとともに、②道具の使い方を身に付ける。
 （中学部「木工作业」）

各教科等を合わせた指導について

知識面は、
「児童生徒に身に付けてほしい知識（「できる」「分かる」「理解する」）は何か」
 を考えます。
 技能面は、
「児童生徒に身に付けてほしい技能（「器用に～する（できる）」「素早く～する（できる）」「ずっと～する（できる）」「いつも～する（できる）」「いつでも～する（できる）」など）」は何か」
 を考えます。



目標及び評価規準の設定ポイント

㊦ 思考力、判断力、表現力等 ㊧ 思考・判断・表現

第1章

教科別の指導

目標の設定		評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	→	思考・判断・ 表現	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習活動において期待する思考 ③ 「思考・判断・表現」している姿 （具体的な児童の姿）

評価規準設定例（思考・判断・表現）

- 生活 ①校庭の草花を観察する学習において、チューリップとタンポポが花の仲間であるという②同じところを見つけて、③教師や友達に教えている。（小学部 2段階サ生命・自然(ア)）
- 算数 ①身近なものの学習において、自動車や自転車が乗るものであると②関連付けながら、③仲間分けをしている。（小学部 1段階A数量の基礎イ(イ)㊦）
- 保健体育 ①水泳の学習において、ビート板を使いながらバタ足を②試して、どのような呼吸をすればよいかを③教師や友達に話そうとしている。（中学部 1段階D水泳運動イ）

第2章（教科別の指導）

各教科等を合わせた指導

目標の内容に取り入れるポイント		評価規準の設定	
思考力、判断力、 表現力等	→	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習活動で見られる思考 ③ 児童生徒に身に付けてほしい「思考力、判断力、表現力等」 （～ができる。考える。広げる。できるようにする。等）	設定した単元（題材）の目標を達成した具体的な姿（目標と評価規準が同じになることもある）

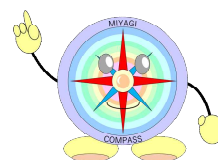
目標設定例（思考力、判断力、表現力等）

- 日常生活の指導 ①朝の会に参加することを通し、②一日の活動の順番を知り、③楽しんで参加している。（小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において、②紙の感触を感じて、③遊んでいる。（小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ②これまでとの違いを感じて、①友達や教師と③交流することができる。（小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①自分の分担の作業について、②順番を考え、効率よくできるよう③工夫することができる。（中学部「木工作業」）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

教科別の指導の評価規準「② 学習活動において期待する思考」と各教科等を合わせた指導の目標「② 学習活動で見られる思考」の部分の表記については、総合的な学習の時間の「考えるための技法」で整理した以下の表を参考にしてください。



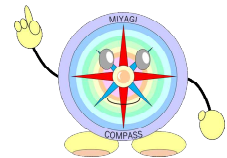
○ 「② 学習活動において期待する思考」、 「② 学習活動で見られる思考」の表記例

考えるための技法		表記例
順序付ける	<ul style="list-style-type: none"> 複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。 	<ul style="list-style-type: none"> 並べて 順番に並べて 並び替えて
比較する	<ul style="list-style-type: none"> 複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 比べて 比較して 違いに気付いて 〇〇を比べながら 同じところを見つけて 順番を考えながら
分類する	<ul style="list-style-type: none"> 複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特徴でまとめながら 違いで分けて
関連付ける	<ul style="list-style-type: none"> 複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。 ある対象に関係するものを見つけて増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇を例えて 知っていることで表しながら 関係付けて 関係を見付けて 関連付けながら 置き換えて 見立てて
多面的に見る・多角的に見る	<ul style="list-style-type: none"> 対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇に着目して 〇〇を見付けて 〇〇を思い起こして 〇〇を感じて 〇〇を気にしながら 〇〇を意識しながら 見方を変えて 考え方を変えて 多角的に考えて
理由付ける (原因や根拠を見付ける)	<ul style="list-style-type: none"> 対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇を見付けて 原因を予想して 原因を見付けながら

見通す (結果を予想する)	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを立てる。物事の結果を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇を見通して 〇〇を思い描きながら 〇〇を予想しながら 〇〇を振り返って
具体化する (個別化する, 分解する)	<ul style="list-style-type: none"> 対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり, 対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 試しながら 実際に確かめながら 調べてやってみたりして 練習しながら 例を示して
抽象化する (一般化する, 統合する)	<ul style="list-style-type: none"> 対象に関する上位概念や法則を挙げたり, 複数の対象を一つにまとめたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを知って 考えをまとめて
構造化する	<ul style="list-style-type: none"> 考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを整理して 工夫して 〇〇を生かしながら 〇〇を見直ししながら 問いを見出だして

※ 「考えるための技法」は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編に記載されています（中学校も同様、高等学校は総合的な探究の時間で記載）。「みやぎ授業づくりガイド」ではp.2-37で触れています。

表記の例を参考に学習活動中の思考（上記）を考え、さらに、どのような姿が見られたらよいのか（下記の例）を考えます。授業改善の視点（p.2-32～p.2-34）も活用しながら設定してみてください。



○ 教科別の指導の評価規準「③ 『思考・判断・表現』している姿」と各教科等を合わせた指導の目標「③ 児童生徒に身に付けてほしい『思考力、判断力、表現力等』」の表記例

教科別の指導の評価規準 ③ 「思考・判断・表現」している姿			各教科等を合わせた指導の目標 ③ 児童生徒に身に付けてほしい 「思考力、判断力、表現力等」		
行おうとしている	表している	知らせている	行おうとする	表すことができる	知らせることができる
考えている	表現している	利用している	考える	表現することができる	利用することができる
伝えている	集めている	伝え合っている	伝えることができる	集めることができる	伝え合うことができる
観察している	楽しんでいる	計画を立てている	観察することができる	楽しむことができる	計画を立てることができる
関わっている	遊んでいる	工夫している	関わるることができる	遊ぶことができる	工夫することができる
記録している	交流している	(力を)身に付けている	記録することができる	交流することができる	(力を)身に付けることができる
方法を決めている	捉えている		方法を決めることができる	捉えることができる	

〔参考〕小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編、学習評価に関する参考資料、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」

目標及び評価規準の設定ポイント

㊤ 学びに向かう力、人間性等 ㊥ 主体的に学習に取り組む態度

教科別の指導

目標の設定	評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	→ 主体的に 学習に取り組む 態度	① 学習活動、学習場面、学習状況など ② 主体的に学習に取り組む態度の具体（「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」） ③ 児童生徒の行為（具体的な児童の姿）

評価規準設定例（主体的に学習に取り組む態度）

- 図画工作 ①貼り絵の活動において、紙をちぎる、貼るなどの活動を②教師のやり方を模倣しながら、
③笑顔を見せて取り組もうとしている。（小学部 1段階）
- 体育 ①シュートゲームの学習において、③順番を守ってボールを②進んで、③投げようとしている。
（小学部 3段階Eボールを使った運動やゲームウ）
- 理科 ①昆虫の育て方の学習において、ザリガニの餌やりや水槽の水替えを②友達と力を合わせて行
い、③学習後もザリガニの世話をしようとしている。（中学部 1段階A生命）

各教科等を合わせた指導

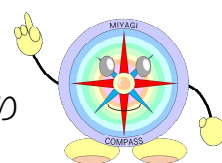
目標の内容に取り入れるポイント	→	評価規準の設定
学びに向かう力、 人間性等 ① 学習活動、学習場面、学習状況など ② 児童生徒に身に付けてほしい「学びに向かう力、人間性等」（・「自分自身に関すること、他者や社会との関わりに関すること」、・「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」） （～しようとする。親しむ。豊かにする。等）		設定した単元（題材） の目標を達成した具 体的な姿（目標と評価 規準が同じになるこ ともある）

目標設定例（学びに向かう力、人間性等）

- 日常生活の指導 ①朝の会に参加することを通し、②一日への希望を持つとともに、②友達と仲良く活動
しようとする。（小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において、②友達と一緒に遊ぶことのよさを感じながら、②興味を持っ
て遊ぼうとする。（小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ①進級についての学習を通し、②新しい友達や先生と一緒に生活することのよさを感じ
ながら、②生活しようとする。（小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①木工の作業を通し、②自分が得意なことを知り、これからの生活に希望を持つとも
に、②自ら進んで取り組もうとする。（中学部「木工作業」）

教科別の指導の評価規準「②主体的に学習に取り組む態度の具体」と各教科等を合わせた指導の目標「②児童生徒に身に付けてほしい『学びに向かう力、人間性等』」を設定するときに押さえない「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」について

- ・ 「粘り強さ」……思いや願いの実現に向かおうとしていること
- ・ 「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること
- ・ 「実感や自信」…意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしようとしたりすることを繰り返し、安定的に行おうとしていること



なお、「実感や自信」は、「学習評価に関する参考資料」において小学校生活科の「学びに向かう力、人間性等」を評価するに当たって踏まえる必要があるとされています。

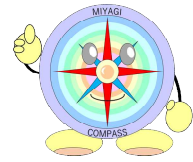
実際の生活に即した学びを行うことの多い特別支援学校（知的障害）、特別支援学級（知的障害）でも同様に考えていくことにします。以下の表を参考にしてください。

○「② 主体的に学習に取り組む態度の具体」と「② 児童生徒に身に付けてほしい『学びに向かう力、人間性等』」の表記例

<p style="text-align: center;">粘り強さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二度、三度と繰り返して ・ 粘り強く繰り返して ・ 見通しを持って ・ 目標に向かって ・ 手順どおりに行って ・ 計画を確実に行って ・ 進んで ・ 友達のしている方に視線を向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで取り組んで ・ 体で表して ・ 考えをはっきりと伝えて ・ 教師と関わりながら ・ 友達と関わりながら ・ 様々な人と関わりながら ・ 自分のよさを生かして
<p style="text-align: center;">学習の調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちを落ち着けて ・ 教師の話を聞いて ・ 自分と友達それぞれのよさを生かして ・ 友達の話を聞いて ・ 友達の思いを理解して ・ 友達の考えを理解して ・ 教師の支援を受け入れて ・ 友達の考えを受け入れて ・ 友達と協力して 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の立場を知って ・ 自分の考えと友達の考えのよさを生かして ・ 手本を模倣して ・ 教師のやり方を模倣して ・ 友達のやり方を模倣して ・ 違った考えを参考にして ・ 新しいことに挑戦して ・ 自分で考えたことを活用して
<p style="text-align: center;">実感や自信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離席せず友達のいる学習の場にいる ・ いつも同じように〇〇しながら（して） ・ 友達と仲良くしながら 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰に対しても変わらず〇〇しながら（して） ・ 周囲の状況に影響されることがなく〇〇しながら（して） ・ 目標や目的を意識して

〔参考〕学習評価に関する参考資料 小学校生活

知的障害のある児童生徒の実態を踏まえると、将来の自立に向けて「自分や他者、社会」について意識することが大切だと考えます。「学びに向かう力、人間性等」の目標を設定する際は、以下の目標設定要素を参考にしてみてください。



○ 「㊦ 児童生徒に身に付けてほしい『学びに向かう力、人間性等』」の目標設定の要素

<p>自分自身に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする。 ・ 自分の意思で、目標を持って課題の解決に向けて取り組もうとする。 ・ 自己の生き方を考え、夢や希望などを持つようとする。
<p>他者や社会との関わりに関する こと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。 ・ 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けて取り組もうとする。 ・ 進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする。

学年 組 教科等：
学級

**目標・評価規準
設定シート**

単元（題材）名

時間扱い

期 間

～

場 所

児童生徒の 実態	
目 標 ※ 年間指導 計画の目標 から児童生 徒の実態に 応じて、適 宜修正	[知識及び技能] [思考力, 判断力, 表現力等] 「学びに向かう力, 人間性等」
扱う教科の 内容	
評価規準	(知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)

学年 組 教科等：
学級

単元構想シート

単元（題材）名 時間扱い

期 間 ~ 場 所

〔知識及び技能〕

目 標 〔思考力、判断力、表現力等〕

「学びに向かう力、人間性等」

メインの
学習活動

おおまかな活動の流れ

主な手立て

扱う教科の
内容

（知識・技能）

評価 規準 （思考・判断・表現）

（主体的に学習に取り組む態度）

○学部 ○年○組（○○学校, ○○学級） ○○○ 略案

略案シート

日 時 令和○年○月○日 0:00~0:00

場 所 ○学部○年○組 教室

指導者 ○○ ○○（T1）

○○ ○○（T2）

第1章

第2章（教科別の指導）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

単元（題材）名	○時間目／○時間扱い		
本時の目標			
扱う教科の内容			
段階	学習活動	指導上の留意点	備考（準備物等）
導入 ○分			
展開 ○分			
終結 ○分			
本時の 評価規準			

「育成を目指す資質・能力」を踏まえた

授業づくりチェックシート

授業づくりについて、Stepごとにチェックしてみましょう。

日付		
学年（学年部）		
単元（題材）名		
チェック項目		チェック
Step 0 事前に確認する		
①	年間指導計画を基に、扱う教科の目標及び内容を確認している。	
Step 1 実態を把握する		
②	個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。	
③	単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心，発達段階，生活経験を的確に捉えている。	
Step 2 単元の構想を練る		
④	学習指導要領の目標及び内容から，単元（題材）を通して，身に付けさせたい「育成を目指す資質・能力」を具体的に考えている。	
⑤	単元（題材）を通して，「育成を目指す資質・能力」に対する到達点を具体的に押さえた評価規準を作成している。	
⑥	扱う教科の目標及び内容を踏まえ，単元計画と指導内容を考えている。	
Step 3 1 単位時間の構想を練る		
⑦	個別の実態は，できること・できそうなことに注目し，時間ごとの指導につながる観点で具体的に押さえている。	
⑧	個別の目標は，どのような力を身に付けさせたいかが分かるよう具体的になっている。	
⑨	個別の目標を達成するための具体的な手立てを考えている。	
Step 4 授業を実践する		
⑩	「育成を目指す資質・能力」が身に付くかどうかを，常に意識しながら授業を行っている。	
⑪	知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導を行っている。	
⑫	発問が吟味されており，教師の動きやT・T間の役割等が決まっている。	
Step 5 授業を振り返る		
⑬	児童生徒一人一人の個別の目標を達成している。	
⑭	「主体的・対話的で深い学び」の視点から，指導目標や指導方法の設定などの授業づくりを行い，その結果を授業改善に結び付けている。	